

1. 主な研究内容について

- ・介護予防をテーマにフレイルを中心とした老年症候群への対策について研究しています。健康行動、特に身体活動の変容や継続に焦点を当て、それらをサポートする要因や介入戦略について、コホート研究やランダム化比較試験により調査しています。
- ・具体的には、ヘルスリテラシー（健康情報を適切な健康行動につなげる能力）と健康アウトカム（フレイル・要介護など）との関連や、健康教育介入が心身機能や活動状態に及ぼす効果を検証しています。
- ・対象者は地域在住高齢者が中心ですが、65歳未満の中高齢者を対象に、糖尿病をはじめとした慢性疾患のセルフケアに関する研究も行っています。
- ・また、自治体との共同研究として、介護予防事業の効果検証に携わっており、社会課題解決に資する研究成果の創出を目指しています。

2. 主な共同研究先

筑波大学介護予防研究室、国立長寿医療研究センター老年学・社会科学部研究センター予防老年学研究部、富山県立大学工学部／看護学部、産業技術総合研究所人間拡張研究センター運動機能拡張研究チーム、兵庫医科大学予防理学療法研究室
大阪府羽曳野市、豊中市

3. 今まで指導した学位論文名

<博士論文>

なし

<修士論文>

なし

4. 主な論文

- ・Uemura K, Kamitani T, Watanabe A, Okamoto H, Yamada M: Association between community-level health literacy and frailty in community-dwelling older adults. *Aging Clin Exp Res* 2023, 35(6):1253-1261.
- ・Uemura K, Iwamoto T, Hiromatsu M, Watanabe A, Okamoto H: Objectively-measured out-of-home behavior and physical activity in rural older adults. *Geriatr Nurs* 2022, 47:18-22.
- ・上村一貴, 山田実, 紙谷司, 渡邊敦也, 岡本啓: 高齢者のヘルスリテラシーが2年後のフレイルの有無に及ぼす影響—前向きコホート研究—. *日本老年医学会雑誌* 2021, 58(1):101-110.
- ・Uemura K, Yamada M, Okamoto H: The Effectiveness of an Active Learning Program in Promoting a Healthy Lifestyle among Older Adults with Low Health Literacy: A Randomized Controlled Trial. *Gerontology* 67(1):25-35, 2021
- ・Uemura K, Kamitani T, Yamada M, Okamoto H: Longitudinal Effects of Active Learning Education on Lifestyle Behavior and Physical Function in Older Adults. *J Am Med Dir Assoc* 22(2):459-463, 2021
- ・Uemura K, Doi T, Tsutsumimoto K, Nakakubo S, Kim MJ, Kurita S, Ishii H, Shimada H: Predictivity of bioimpedance phase angle for incident disability in older adults. *J Cachexia Sarcopenia Muscle* 11(1):46-54, 2020
- ・Uemura K, Yamada M, Okamoto H: Effects of Active Learning on Health Literacy and Behavior in Older Adults: A Randomized Controlled Trial. *J Am Geriatr Soc* 66(9):1721-1729, 2018
- ・Uemura K, Yamada M, Nagai K, Ichihashi N: Older adults at high risk of falling need more time for anticipatory postural adjustment in the precrossing phase of obstacle negotiation. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 66(8):904-909, 2011

5. 現在の指導している大学院生数

M2: 2名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

1の研究内容を中心として、人を対象とした医学系研究に関心があり、研究の方法論に関する学習からデータ収集、論文での成果発表まで、主体的に取り組める方を希望します。フレイル／健康行動／身体活動／セルフケア／高齢者などのキーワードのうち、共有できる部分があれば、対象とする疾患や領域は特に限定しません。